

就職・進路に関する中華民国（台湾）との比較研究

－中華民国（台湾）「樹人医護管理専科学学校日本語学科」及び「文藻外語大学」の協力を得て－

Comparative Study on Finding Employment and Future Course between Republic of China and Japan
With the Cooperation of Shu-Zen Junior College of Medicine and Management & Wenzao Ursuline University of Languages, Taiwan (R.O.C)

大 重 康 雄
Yasuo Oshige

鹿児島女子短期大学

台湾の提携先 樹人医護管理専科学学校理専科学学校の協力を得て「五技（樹人医護管理専科学学校等の職業専門学校）」から「二技」への進学動向やその後の就業状況の調査を実施した。その結果、五専を卒業後70%以上が二技高等教育機関に進学していることが分かった。先行研究の分析で台湾の若年者の就職意識には自己達成志向や向上志向があることが分かっており、今回の卒業生調査でも類似する状況を確認できた。また今回の調査では二技進学後の就職状況について、卒業後も3割程度が就職活動を続けている実態があることが分かった。本学教養学科1年生のキャリアデザインについて、昨年度実施した台湾学生と比較、2005年調査との比較調査も行い、雇用環境の変化により学生の職業意識も変化している実態を考察した。

キーワード：五専、二技、雇用環境、職業意識

1. はじめに

昨平成27年度に引き続き、樹人医護管理専科学学校（中華民国高雄市－以下中華民国については「台湾」と表記する）の協力を得て再び台湾高雄市で就職・進路に関わる調査を行った。今回の調査は、本年8月27日～9月3日に実施した台湾海外研修－本学の一般教養科目「海外事情」^{注1}に引率教員として同行し滞任期間中8月30日～8月31日の2日間インターンシップも実施し、台湾企業と直接学生がコミュニケーションを取る状況を知ることができ大きな収穫であった。また、樹人医護管理専科学学校教員の紹介で同校から多くの学生が編入進学している「文藻外語大学」日本語文系董荘敬副教授を紹介してもらい、同大学のキャリア教育としてのインターンシップ実施状況や就職・進路に関する同大学での支援状況を詳しく知ることができこれも今回の大きな収穫であった。平成27年度「鹿児島県観光統計」^{注2}によれば、国籍別外国人延べ宿泊者数は128,850人に達し、国籍別構成比34.0%と第1位となっており第2位の香港（17.2%）を大きく上回っており、本県観光産業にとって最も重要な地域となっている。本研究調査を通じて更に同国の状況を知り学生と共に学術・教育上の交流が出来たことは、今後の鹿児島県観光産業の進展のため下支えとなれたのではないかと考える。

2. 本研究の目的

昨平成27年度は、樹人医護管理専科学学校（中華民国台湾省高雄市）の協力を得て学生の職業意識の実態について研究を行い研究成果は「職業意識に関する中華民国(台湾)との比較研究」（鹿児島女子短期大学紀要第51号、2016年2月）として発表した。同研究過程で学生の職業意識には日台で相似性があることが明らかになったが、一方、台湾での高等教育期間終了後の円滑な職業社会への移行をどのように支援すべきかについて、更に共同研究の余地があることが分かった。

本研究では、台湾での「五専（樹人医護管理専科学学校等の5年制専科学学校）」から「二技（2年制専科学院）」への進学動向やその後の就業状況の調査、進路状況の類型化など樹人医護管

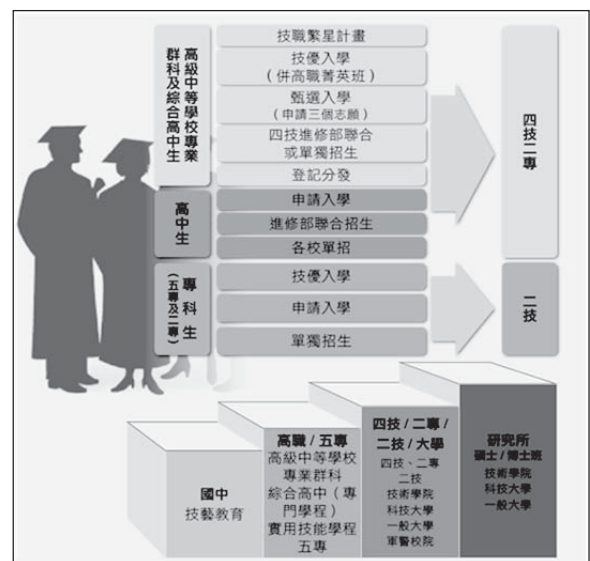


図1 台湾での進学上の選択肢

出典：中華民国教育部「技術及職業教育簡介」2015年板

理専科学学校日本語学科の協力を得てアンケート調査など共同研究で現状を把握し、本学のキャリア教育と比較しつつ就職・進路上の課題を共有することである。また本学学生（教養学科）におけるキャリアデザイン上の意識調査を行い短期大学としての就職・進路上の課題を過去のデータ（2005年）との比較も含め今後の課題を明らかにすることである。今回取り組んだ本学学生の海外インターンシップについても、成果を考察する。

3. 先行研究の概要

台湾の中等教育（後期）及び高等教育機関の就職・進路については、東アジアの経済発展を背景に職業教育が独自の発展を遂げたことから、国内研究では台湾の職業高等教育部門に論点をおいた研究が発表されている。梁（1995）は80～90年代に急速に経済発展した台湾の当時の教育状況を検討しつつ技術職業教育分野の課題に論点をおき樹人医護管理専科学学校のような「専科学学校」制度等についても詳細に考察している。産業の高度化が進む過程では、基礎的技術・知識だけでは足りず社会変化に対応できる教育が必要であるとし、職業学校の内容・設備では「適材適所の人間を形成するという教育」^{注3}を実現するよう行政も責務として対応するべきと述べている。

魏（2008）は台湾の義務教育制度改革の過程で後期中等教育がどのように再編されるのか、普通高校・職業高校の地域化政策に論点を置き考察している。台湾では2014年に9年制義務教育と3年制中等教育（後期）を合わせた「十二年国民基本教育」が2014年8月から実施され、中等教育（後期）の無試験化や条件付きながら学費免除等が実施され国民の教育レベルの向上が着実に進んでいる。この教育改革の議論の中で普通高校系統と職業教育系統との2元化を指摘し、「普通高校系統と職業教育系統との二元的入試選抜制度が変わらないままでは、普通高校と職業高校との連携関係の再構築における『高校地域化』の理想には限界がある」と述べ、もう一段の改革の必要性を強調している。

野々村他（2013）は2011年からの日本の大学等におけるキャリアガイダンス義務化に伴い、その後のキャリア教育を展望するため台湾でのキャリア教育についてインタビュー形式で調査を行いインターンシップの実施状況や就職指導の実施状況を要約し且つ、少子化の進行に伴う大学への影響や大学の差別化努力の必要性について指摘をおこなった。これらの研究は台湾の教育制度面から職業教育の課題にアプローチしている。一方、台湾若者の職業選択・キャリア形成の課題について実証的に研究を行っているのが董（2006）・董（2007）董（20012）董（2015）である。今回の調査では文藻外語大学の同氏研究室を訪問し、著作物の提供を受け同大学のキャリア教育の状況も知ることができた。董（2006）では台湾南部の国立・私立の普通大学及び技術職業系大学7校の大学生567名から回答得て職業選択や職業意識について因子分析等の手法で分析を行っている。同研究では台湾大学生には「自己充足志向」「モラトリアム志向」があることを指摘している。董（2007）では任意の台湾国内若年就労者569名から回答を得て因子分析により自己効力感の要因を析出し、職業階層への規定力を分析している。分析結果では「自己効力は本人の職業的地位達成に影響を及ぼす可能性がある」^{注4}と述べている。董（2012）は、台湾で出版したキャリア形成の問題に着目した書籍（単著）である。グローバル化など台湾産業社会での継続的変化に対応するため、若年者のキャリア形成や職業社会への円滑な移行という視点で体系的な研究を行った成果である。董（2015）は、キャリア形成効果について長期型インターンシップに着目し、社会人基礎力向上の要因分析を行った研究である。研究調査結果によると、「台湾ではインターンシップによって社会人基礎力を向上されるのが可能だ」^{注5}と指摘し、特に「主体性」「状況把握力」が顕著に成長していることを述べている。

台湾国内の研究者により、キャリア形成を支援する要因について実証的な分析が進んでおりこれらの成果の累積が、台湾の職業教育の改革や労働環境の改善に結びつくものと考えられる。

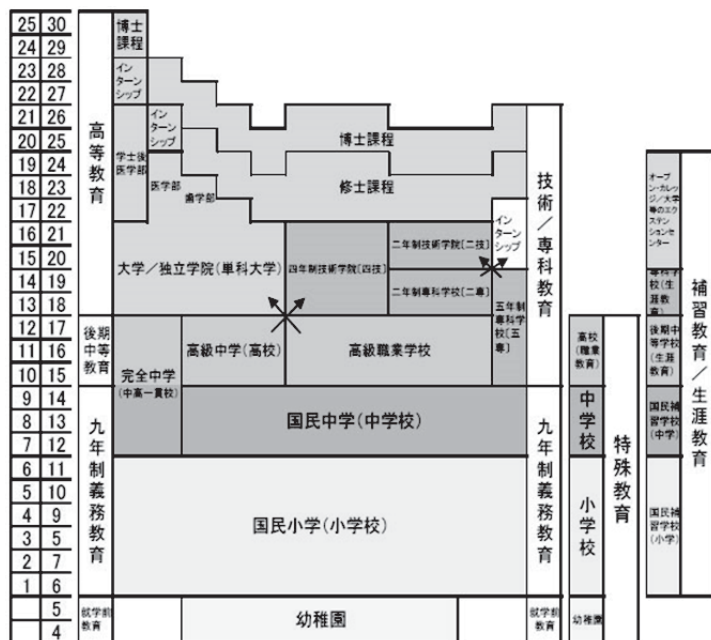


図2 台湾の現行学校教育系統図

出典：文部科学省 Hp「台湾の学校教育制度等」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/008/006.htm

4. 樹人医護管理専科学校（五専）応用日本語科卒業後の進路調査

先行研究によれば、台湾においても日本と同様、産業社会の高度化に合わせ教育改革が進み、後期中等教育・高等教育でのキャリア教育も質的な変化が求められる時代となってきた。研究協力校の樹人医護管理専科学校は、技術職業系の5年制専科学校（五専）であるが、昨年度取り組んだ大重（2015）で課題とした五専から「二技（2年制技術学院）」への進路^{注6}について、その後の調査について、同専科学校教員へ再度調査協力を依頼した。今回の現地調査に合わせ応用日本語学科の学生・卒業生について調査が実施されたが、学外の卒業生に対するものであり、時間と経費を考慮し電子メール等インターネットで連絡が付く範囲の卒業生から有効に得られたデータのみで下記集計をおこなった。

4-1 進路調査方法

○調査1・・・2015年度（台湾暦104年度）卒業生（調査協力講師担当クラス）の進路調査

対象人数41人中有効回答33人（回答率80.5%）

○調査2・・・「二技」等進学後の進路アンケート調査 アンケート期間（2016/8/30～2016/9/1）

卒業生のうち連絡可能だった15人について集計

○調査2アンケート内容

（1）現在の状況 ①就職済み（企業名：業種等） ②就活中（希望業種・職種）

（2）進学から就職への移行について、どのようなアシストを希望するか？

①在学中の支援内容 ②外部機関からの支援内容

（3）台湾の企業の採用審査方法

（1）採用時期はいつか

（2）選考方法 ①書類選考 ②筆記 ③面接 一次 二次

（3）正規・非正規雇用はだれが決定するか

（4）見習期間後、正規社員になれるか

（属性情報）年齢・所属・卒業大学

4-2 調査結果

表1 <調査1> 2015年度（台湾暦104年度）卒業生（調査協力講師担当クラス）の進路調査

	性別	進路	進路先	進路系統		男女計(人、%)		男子(人、%)		女子(人、%)		
1	女性	進学	国立T科技大学－日本語系	語学	進学 就職 ワーキングホリデー 兵役 留年 合計	進学	25	75.8%	7	77.8%	18	75.0%
2	男性	進学	国立T科技大学－日本語系	語学		就職	3	9.1%	0	0.0%	3	12.5%
3	男性	進学	国立T科技大学－日本語系	語学		ワーキングホリデー	3	9.1%	0	0.0%	3	12.5%
4	女性	進学	国立T科技大学－美容系	美容		兵役	1	3.0%	1	11.1%	—	—
5	女性	進学	国立T科技大学－創意商品設計系	商業		留年	1	3.0%	1	11.1%	0	0.0%
6	女性	進学	国立T科技大学－商業設計系(進修部)	商業		合計	33	100%	9	100%	24	100%
7	男性	進学	国立T応用科技大学－観光管理系	観光	進学・就職進路内訳	進学 (二技) 						

出典：調査協力教員担当クラスのデータから筆者作成

表1は、2015年度樹人医護管理専科学学校応用日本語学科卒業生（調査協力講師担当クラス）の進路調査である。対象41人中、個人情報保持及び未回答を除く33人から回答を得た。進路別では日本語学科卒業生としてワーキングホリデーで日本に渡航し更に実践を積む学生が3名いる。また男子の兵役1名は非常に特徴的である。進学・就職別では二技等高等教育機関に進学が75.8%，就職は3人に留まり9.1%だった。進学先の系統別分類では、語学系統が13人52.0%と過半数を占めている。次にマルチメディア設計等技術系統に4人、商業系等に3人、観光系統に2人となっていた。就職は、保険系統と販売系等に各1人、不詳が1人である。

5年制専科学学校（五専）は、日本の短期大学と同じく4年制大学よりも2年早く、専門技術を持って職業社会に参加できるメリットがあり、同専科学科の存立理由であろう。今回の調査では、中等教育後期3年＋高等教育2年の5年制専科学学校では、まだ学び足りない現状が分かった。今回の調査では、現役の学生数人にインタビューも行ったが、いずれの学生も更に日本語能力を伸ばしたい、完璧にしたいという願望が強く、明確に進学や留学の意志を述べる学生が多かった。董（2006）では、大学生（台湾南部を中心）の職業選択の規定要因に関し因子分析研究を行っているが、同研究調査の結果、職業意識の価値志向^{注7}で第1因子に「自分の能力を十分発揮して働きたい」第3因子に「自己充足志向（self-sufficiency）」第4因子に「学歴主義志向」を挙げており、今回の日本語学科の卒業進路を見た場合、1クラスのみデータではあるものの、それらの分析傾向と類似した結果となっている。

表2 <調査2> 「二技」等進学後の進路アンケート集計

Ref.	現在の状況	就職先	(就活中の方) 希望業種、職種	就職への支援 希望内容	在学中の就職支援内容	外部機関からの支援内容	台湾企業の 採用時期	選考方法	正規、非正規 雇用はだが 決定するか	見習期前後、 正規社員 になれるか	年齢	卒業学校(二技等)
1	就職	教育関係		在学中の支援	学内キャリア・カウンセリング 連携企業での実習		3月、7月	面接1回	応募者側	なれる	29歳	BS外語大学
2	就職	製造業		外部機関からの支援			通年	書類選考、 面接1回	企業自身	なれる	25歳	国立T第一科技大学
3	就職	製造業		在学中の支援			通年	面接1回	企業自身	なれる	25歳	国立T第一科技大学
4	就職	製造業		在学中の支援			通年	面接1回	企業自身	なれる	25歳	SZMO専科学学校
5	就職	製造業		外部機関からの支援		求人サイト情報	通年	書類選考、 筆記試験、面接1回	企業自身	なれる	26歳	BS外語大学
6	就職	販売・営業		在学中の支援	学内キャリア・カウンセリング		3月	面接1回	企業自身	なれる	24歳	GS大学
7	就職	販売・営業		外部機関からの支援			通年	面接1回	応募者側	なれる	25歳	国立T科技大学
8	就職	販売・営業		外部機関からの支援			1月	面接1回	企業自身	なれる	27歳	国立T第一科技大学
9	就職	貿易業		在学中の支援			7月		企業自身	なれる	24歳	GS大学
10	就職	貿易業		外部機関からの支援			通年	面接1回	企業自身	なれる	26歳	GS大学
11	就活中		教育関係機関	在学中の支援	学内キャリア・カウンセリング 学内求人情報		8月	面接1回	企業自身	なれる	24歳	BS外語大学
12	就活中		サービス業 教育関係機関	在学中の支援	卒業先輩のアドバイス 学校求人情報		通年	面接1回	応募者側	なれる	22歳	義守大学
13	就活中		事務職 (工場以外)	外部機関からの支援		求人企業情報	通年	書類選考、 筆記試験、面接1回	企業自身	なれる	25歳	国立T第一科技大学
14	就活中		日本語能力を 活かせる業種 (貿易業・観光業)	外部機関からの支援		求人斡旋機関	6月	筆記試験、面接1回	応募者側	なれる	29歳	BS外語大学
15	就活中		特にこだわらない	外部機関からの支援		有償ボランティア/実習 求人サイト「104人力銀行」	通年	筆記試験	企業自身	なれる	25歳	GS大学

現在の状況	人数、%	
就職	10	66.7%
就活中	5	33.3%
合計	15	100%

就職先内訳	人数、%	
製造業	4	44.4%
教育関係	1	11.1%
販売・営業	2	22.2%
貿易業	2	22.2%
合計	9	100%

就職への支援 希望内容	人数、%	
外部機関 からの支援	8	53.3%
在学中の支援	7	46.7%
合計	15	100%

表2は、樹人医護管理専科学学校を卒業後、二技等へ進学後の進路アンケートである。卒業生アンケート回答中、就職している人が10名（66.7%）、就活中の人は5人（33.3%）であった。就活中の人の年齢は22才～29才までとかなり年齢差があり、転職による就活も含まれている可能性がある。表3～表4は直近の台湾の失業率に関わる統計である。表3は台湾の学歴別失業率推移である。大学卒業以上のクラスが最も高く、2016年の7月以降は5%前後で推移している。2016年9月の数値で短期大学（junior college）が2.96%，職業系高等学校（vocational）が3.94%となっており、1%以上の差が出ている。熟慮して二技等へ進学しても、卒業後の進路については決して楽観出来ない状況である。

表3 台湾の学歴別失業率推移

Year & month	Total	Male	Female	Educational attainment					University & graduate school
				Primary school & below	Junior high	Senior high	Vocational	Junior college	
AVE., 2011	4.39	4.71	3.96	2.52	4.44	4.75	4.63	3.40	5.18
AVE., 2012	4.24	4.49	3.92	2.32	4.27	4.45	4.15	3.18	5.37
AVE., 2013	4.18	4.47	3.80	2.29	4.29	4.25	4.06	3.11	5.26
AVE., 2014	3.96	4.27	3.56	2.04	3.87	3.79	3.85	3.09	4.99
AVE., 2015	3.78	4.05	3.44	1.84	3.29	3.80	3.84	2.75	4.79
AUG.	3.90	4.14	3.60	1.85	3.26	4.01	3.86	2.78	5.07
SEPT.	3.89	4.13	3.59	1.97	3.22	3.96	3.84	2.80	5.04
OCT.	3.90	4.12	3.61	2.16	3.28	3.91	3.85	2.85	4.98
NOV.	3.91	4.14	3.62	2.21	3.43	4.01	3.82	2.97	4.88
DEC.	3.87	4.12	3.56	2.20	3.43	3.93	3.85	2.86	4.82
AVE., 2016	3.94	4.20	3.60	2.29	3.59	3.99	3.89	2.94	4.85
JAN.	3.87	4.11	3.58	2.12	3.49	3.87	3.83	2.98	4.80
FEB.	3.95	4.20	3.64	2.26	3.66	3.92	3.91	2.96	4.90
MAR.	3.89	4.17	3.54	2.32	3.57	3.73	3.86	2.86	4.85
APR.	3.86	4.14	3.50	2.32	3.66	3.80	3.83	2.91	4.70
MAY	3.84	4.12	3.48	2.18	3.67	3.91	3.88	2.92	4.59
JUNE	3.92	4.21	3.56	2.31	3.68	4.17	3.85	2.88	4.79
JULY	4.02	4.27	3.69	2.37	3.58	4.10	3.94	2.95	5.00
AUG.	4.08	4.31	3.78	2.38	3.54	4.23	3.97	3.00	5.11
SEPT.	3.99	4.27	3.64	2.36	3.45	4.15	3.94	2.96	4.95

出典：・National Statics (ROC), 中華民国統計资讯网

Table 9. Unemployment Rate by Educational Attainment より作成

表4 台湾の年齢別失業率推移

Year & month											Unit: %
	15-19 years	20-24 years	25-29 years	30-34 years	35-39 years	40-44 years	45-49 years	50-54 years	55-59 years	60-64 years	65 years & over
AVE., 2011	11.22	12.71	7.11	4.32	3.32	3.02	2.99	2.66	2.44	1.57	0.15
AVE., 2012	9.80	13.17	7.08	4.34	3.37	2.76	2.55	2.35	2.14	1.69	0.17
AVE., 2013	9.65	13.75	7.11	4.20	3.37	2.51	2.59	2.26	2.15	1.32	0.14
AVE., 2014	8.78	13.25	6.84	4.04	3.26	2.58	2.37	2.12	2.04	1.23	0.10
AVE., 2015	8.63	12.59	6.55	3.97	3.14	2.37	2.36	2.06	1.76	1.16	0.14
AUG.	8.69	13.64	6.71	3.95	3.17	2.56	2.38	1.95	1.72	1.17	0.16
SEPT.	8.95	13.28	6.79	3.96	3.27	2.48	2.26	2.01	1.91	1.18	0.14
OCT.	9.69	12.88	6.78	3.84	3.26	2.56	2.40	2.09	1.94	1.36	0.10
NOV.	9.60	12.73	6.63	3.86	3.32	2.63	2.35	2.16	2.04	1.55	0.18
DEC.	9.71	12.49	6.70	3.93	3.31	2.44	2.40	2.01	2.04	1.53	0.16
AVE., 2016	8.72	12.59	6.78	3.81	3.44	2.66	2.54	2.18	2.01	1.59	0.20
JAN.	9.13	12.40	6.69	3.89	3.36	2.56	2.54	2.01	1.94	1.37	0.19
FEB.	8.29	12.46	6.83	3.98	3.48	2.62	2.60	2.15	2.02	1.52	0.17
MAR.	8.50	12.37	6.80	3.85	3.35	2.68	2.47	2.08	2.02	1.53	0.13
APR.	8.66	12.27	6.83	3.89	3.35	2.56	2.40	2.08	1.93	1.52	0.16
MAY	8.35	11.90	6.62	3.89	3.39	2.56	2.52	2.14	2.10	1.51	-
JUNE	8.65	12.36	6.55	3.72	3.45	2.74	2.66	2.28	2.15	1.67	-
JULY	8.71	13.05	6.85	3.65	3.55	2.65	2.63	2.36	2.10	1.60	0.36
AUG.	9.05	13.43	6.98	3.71	3.52	2.77	2.58	2.27	1.98	1.82	0.37
SEPT.	9.15	13.03	6.86	3.68	3.47	2.82	2.50	2.20	1.88	1.73	0.37

出典：・National Statics (ROC), 中華民国統計资讯网

Table 10. Unemployment Rate by age

表4は台湾の年齢別失業率推移を示している。15-19歳数値は本年に入って昨年と同様8~9%台と高く、昨年は年末にかけ悪化する傾向が見られた。高等教育機関に進んだ学生の多くは20-24歳数値となる。本年夏場以降は13%台が続き極めて厳しい状況である。市場規模や産業構造が違うので単純に比較はできないが、表5日本の年齢階級別完全失業率推移15~24歳と比較すると、その厳しさが理解できる。日本はリーマンショックの影響を受けた2009年~2010年でこそ9%台の失業率となったもののその後は5%台を中心に推移し本年6月以降は5%台前半となっている。日本の労働力人口は総務省本年9月の労働力調査（基本集計）によると、男女計で6,701万人となっている。一方台湾の労働力人口は本年10月で1,175万人^{注8}と日本の5分の1以下であり、労働市場の規模が小さくその分高等教育機関からの卒業生の増加に対し十分な市場ではない。日本語学科卒業生は、その語学能力を利用しワーキングホリデーなども活用し海外とりわけ日本での就業意欲があり、そのことは在学学生へのヒアリングでも確認できた。表2のアンケートの就職先

表5 日本の年齢階級別完全失業率推移

年 月		男										女					計																
		総数 15~64					15~24					25~34					35~44					45~54					55~64					65 歳以上	
		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳		歳			
実 数	2005年		4.4	4.6	8.7	5.6	3.8	3.0	4.1	2.0																							
		2006	4.1	4.3	8.0	5.2	3.4	2.9	3.9	2.1																							
		2007	3.9	4.0	7.7	4.9	3.4	2.8	3.4	1.8																							
		2008	4.0	4.2	7.2	5.2	3.4	2.9	3.6	2.1																							
		2009	5.1	5.3	9.1	6.4	4.6	3.9	4.7	2.6																							
		2010	5.1	5.3	9.4	6.2	4.6	3.9	5.0	2.4																							
		# 2011	(4.6)	(4.8)	(8.2)	(5.8)	(4.1)	(3.6)	(4.5)	(2.2)																							
		2012	4.3	4.6	8.1	5.5	4.1	3.3	4.1	2.3																							
		2013	4.0	4.2	6.9	5.3	3.8	3.3	3.7	2.3																							
		2014	3.6	3.8	6.3	4.6	3.4	3.0	3.2	2.2																							
数	2015年 6月	2015	3.4	3.5	5.5	4.6	3.1	2.8	3.1	2.0																							
		3.4	3.6	5.5	4.5	3.2	2.8	3.1	2.0																								
		7	3.4	3.6	5.5	5.0	3.1	2.7	3.1	1.6																							
		8	3.4	3.6	5.5	4.5	3.1	2.9	3.5	1.9																							
		9	3.4	3.5	5.4	4.2	3.3	3.0	2.9	2.3																							
		10	3.1	3.3	5.2	4.2	3.0	2.7	2.7	1.8																							
		11	3.2	3.4	4.9	4.8	3.0	2.8	2.5	1.6																							
		12	3.1	3.3	4.5	4.7	2.5	2.8	2.8	1.5																							
		2016年 1月	2016	3.2	3.4	5.0	4.2	2.8	3.0	3.0	1.7																						
		2	3.2	3.4	5.6	4.1	3.0	2.7	3.0	2.1																							
(%)		3	3.3	3.4	6.9	3.7	3.1	2.5	3.0	2.3																							
		4	3.4	3.5	5.7	4.8	3.1	2.5	3.1	2.1																							
		5	3.2	3.4	5.5	4.2	3.0	2.9	2.8	2.2																							
		6	3.1	3.3	5.2	4.1	3.2	2.6	2.7	1.8																							
		7	3.0	3.2	4.7	4.4	3.0	2.0	3.1	1.6																							
		8	3.2	3.3	5.2	4.4	3.0	2.3	3.2	1.9																							
		9	3.0	3.1	5.0	3.9	2.8	2.4	2.8	2.4																							
		10	3.0	3.1	5.0	3.9	2.8	2.4	2.8	2.4																							

出典：総務省統計局「労働力調査（基本集計）平成28年(2016年)9月分(速報)より作成

内訳で製造業が第1位となっているが、台南・高雄は台湾を代表する工業地帯で特に金属加工など有力である。日系の製造業も数多くこの地域へ進出している。

「就職への支援希望」の内訳では「外部機関からの支援」が在学中の支援をやや上回った結果となっているが、在学生へのヒアリングでも自ら「104人力銀行」など求人サイトで情報収集し、面接等に出かける状況が多く、日本の大学で多く見られるキャリアセンター等でのサポートとはかなり違っている。また企業の選考方法が「面接1回」と回答した件数も多く、このことも日本の状況とかなり違っている。

以上のアンケートで得られたデータ件数はやや少なく、調査1～2のデータだけでは統計的分析に馴染まないが、今回集計した結果での総括は以下の通りとする。

<調査1・2での総括>

- ① 5年制専科学校（五専）の日本語学科で学ぶ学生の多くは、卒業後2年間更に二技等高等教育機関での勉学を続けている^{注9}。ワーキングホリデー等を利用し日本に渡航し実践的な体験をする学生も複数おり学修意欲が高い。
- ② 二技卒業後の就業については、決して売り手市場ではなく厳しい現実がある。台湾の労働統計上も若年者失業率が他の年齢層と比較し格段に高い。
- ③ 企業の採用選考方法は面接を中心としたシンプルな選考である。採用時期は学生が卒業する6月から翌月7月が中心となるが、通年で採用している企業も多い。

5. 本学教養学科（1年生）におけるキャリアデザイン調査

台湾での樹人医護管理専科学校での調査と平行して、本学内でも学生の就業への意識調査を行った。

5-1 調査の目的

我が国の短大生は通常1年生後期から本格的に就職活動準備に入るが、本年度の学生のキャリア意識がどのようなものを考察するため、本学教養学科1年生後期専門科目（必修）「キャリアデザインⅠ」の受講生に対しアンケート形式で調査を実施した。このアンケートは教員研究^{注10}として2005年10月26日に今回と待った同じ条件で実施しているが、その後10年を経て学生の就業意識がどのように変化したかについても同時に考察する。

※教養学科単独を対象としたのは、就職対象業種が限定された他の目的学科（児童教育学科等）と違い、就職先が多岐にわたっており公開されているキャリア・就職に関する統計や樹人医護管理専科学校の卒業生データとの比較し易いためである。

5-2 調査の概要

- (1) 調査日：2016年11月1日
- (2) 「キャリアデザインⅠ」受講生79名、当日欠席1名 回答数78件 （回答率100%）
- (3) 調査方法：質問紙調査（アンケート方式・・・リッカート5件法）
「自己概念」「職業環境」「職業選択」「キャリア・カウンセリング」の4部門について5件法尺度にて調査^{注11}
- (4) 集計グラフ：縦軸数字がアンケート回答選択、横軸数字は人数を表す。

<アンケート内容>

今回実施したアンケートは全体で質問が20項目あるが、台湾の職業・進路との比較考察に有意と思われる以下の9項目に絞り込み述べる。

A) 自己概念

1. 自分自信の興味・価値観・能力についての理解度は（程度を表す番号に○印 以下同様）
理解している ← 5 4 3 2 1 → 理解していない
2. 将来の職業選択についてすでに具体的ビジョンを持っているか
持っている ← 5 4 3 2 1 → 持っていない

B) 職業環境

1. 自分の時の就職状況をどう思うか

好転している ← 5 4 3 2 1 → かなり厳しい

2. 終身雇用制についてどう思うか

望ましい ← 5 4 3 2 1 → 望ましくない

3. 将来自己実現が果たせる安定した職業につけそうか

可能性がある ← 5 4 3 2 1 → 可能性は低い

C) 職業選択

1. 企業選択のポイントはなにか（上位3つ 番号に○印）

- ①給与・待遇
- ②企業のステータス
- ③経営安定性
- ④企業の将来性
- ⑤企業理念・社会貢献度
- ⑥的確な能力評価
- ⑦自己概念（興味・価値観・能力）とのマッチング
- ⑧周囲からの助言・勧め

2. 国外での就労についての可能性はどうか

大いに関心あり ← 5 4 3 2 1 → 関心はない

D) キャリア・カウンセリング

1. 就職活動にカウンセリングが必要か

大いに必要 ← 5 4 3 2 1 → 必要ない

2. キャリア・カウンセラーに何を望むか（上位3つ 番号に○印）

- ① ライフプランニングを含むキャリアデザインへの支援
- ② 就職活動における自己分析に対する支援
- ③ 就職活動における心の悩み相談
- ④ 企業選択に対する相談・支援
- ⑤ 就職活動における企業情報提供
- ⑥ 就職活動に対する面接話法など具体的指導

5-3 調査の分析・考察

A) 自己概念

1. 自分自身の興味・価値観・能力についての理解度

図3は自己分析への理解度の状況を示しているが、尺度3～4で全体の7割を占めている。2005年と比較すると尺度4～5に向上が見られる。自分のパーソナリティを如何に把握しているかが、就職や進路決定に多く関わっており、本学でもキャリア・カウンセリングを頻繁に行い学生の支援に当たっている。

2. 将来の職業選択についてすでに具体的ビジョンを持っているか

図4が将来に対するビジョンをどの程度自覚しているかを示した図である。尺度2～3で全体の6割を占め、1年生のこの時期ではまだ具体的なビジョンは固まっていない状況がわかる。大重（2016）で昨日樹人医護管理専科学校応用日本語学科に行った同種のアンケート「就職に対する方向性は？」について、4年生・5年生ともに本学より高く、上位尺度2段階で4年生が34.2%、5年生では43.6%であった。本学は教養学科1年生（2015年9月に調査）が29.8%であった。このビジョンの質問では尺度4～5では合計23.1%とほぼ昨年と近い値となっている。キャリア・カウンセリングでは自己概念と将来展望の関係を重視するが、図4と5のデータについてExcel用CORREL関数を使い相関関係を調べてみると値が【0.861345853】となり、相関度は高いことが確認できた。自己分析が不十分な場合、志望理由等が不明確となり結果的に就職活動が不調になる可能性が高いので、この点の指導は十分学生の理解を得て進めたい。2005年との比較では尺度1が11.1%減少し、全体的に改善している。

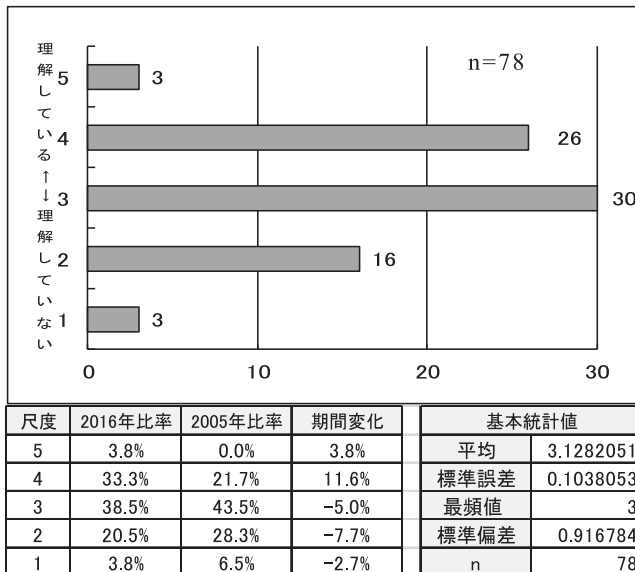


図3 自分自身の興味・価値観・能力の理解度

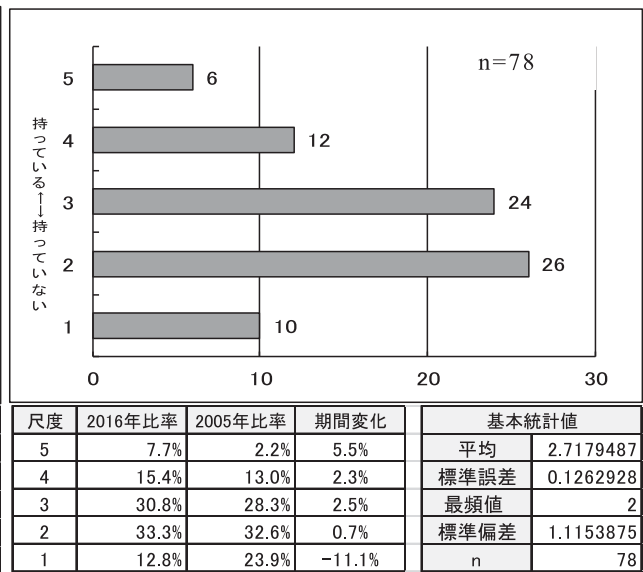


図4 将来の職業選択に具体的ビジョンを持っているか

B) 職業環境

1. 自分の時の就職状況をどう思うか

2016年度の就職戦線は、マスコミの報道では首都圏を中心に「売り手市場」であり、マッチングに偏りが見られるものの、良好な状況である。図5は1年生が体験する2017年の就活状況について意見を求めたものである。尺度3以上の上位で約8割を占め、楽観的な側面が出ている。2005年データと比較すると、非常に大きな変化が見られる。2005年の尺度1は最も悲観的な値を示し、32.6%であった。この尺度の改善は非常に大きな特徴である。2005年当時の日本経済は1997年の消費税率の引き上げ以降景気が低迷し、デフレスパイラルからの脱却を目指し1999年にゼロ金利政策が実施されている。政府・日銀の景気浮揚策がようやく効果を上げ2002年頃からの景気回復期に入った時期である。

図6は、終身雇用制度についての賛否データである。2016年では尺度3～4で全体の約8割であるが、2005年当時は経済の先行き不透明な時代であり尺度5が23.9%と大きく全体に終身雇用制に対する希望が強く表れている。

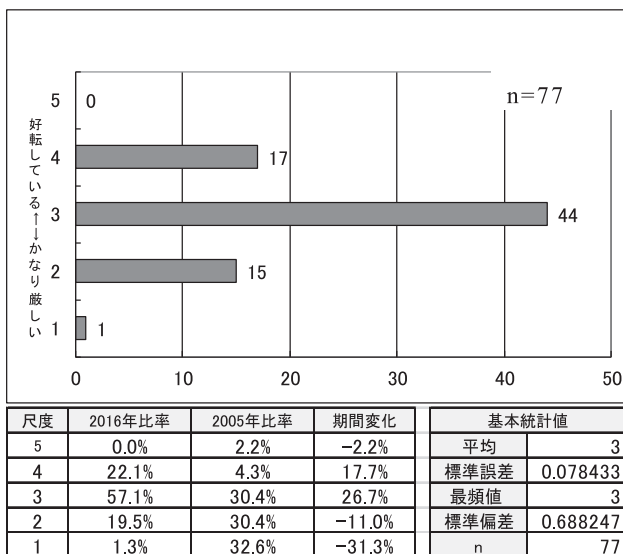


図5 自分の時の就職状況はどうか

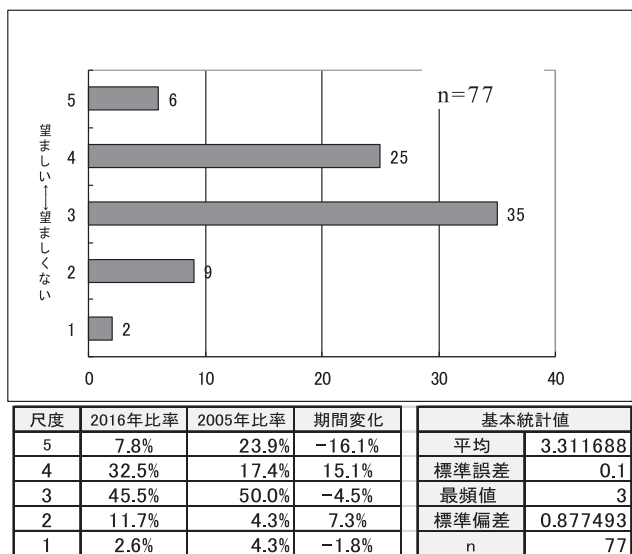


図6 終身雇用制についてどう思うか

図7は、将来への展望として自己実現が果たせる職場に就職できそうかという問いに対する結果である。

全体的に学生の意識はニュートラルで尺度3を中心に上下均等にわかれている。2005年のデータは図5と同様本年デー

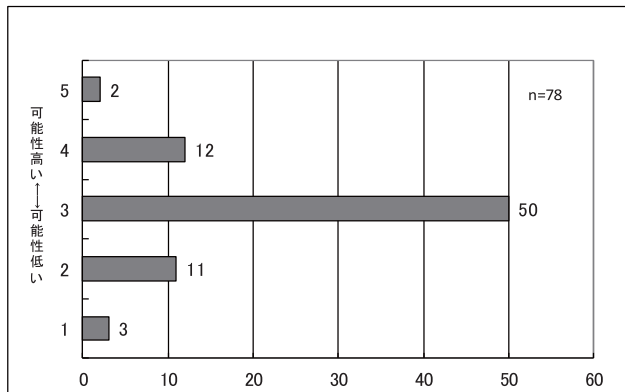
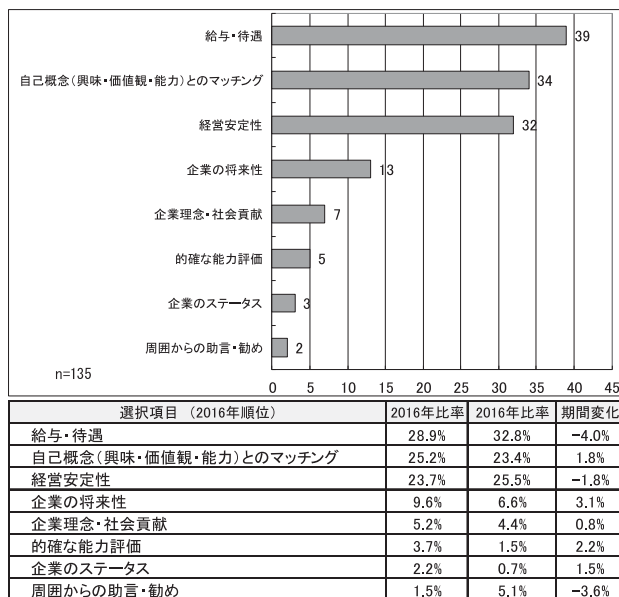


図7 将来自己実現が果たせる安定した職業につけそうか

図7は「仕事のやりがい・資格・能力を活かす可能性」であり、5年生でも第2位になっている。金銭面での要求と同時に自分の主体性を発揮する職場を選ぶ意志が現れている。本学の結果も第3位となっている。

図8 企業選択のポイントは何にか
(上位3つまで選択可)

タとは大きな乖離が見られる。尺度3～1の合計で91.3%を占め就職状況について展望の描けない悲観的な状況が非常によく分かる。

C) 職業選択

1. 企業選択のポイントは何にか

図8は就職先企業の選択について何を選択の条件にしているかの結果である。上位3つまでを選択可能としているが、第1位は当然ながら「給与・待遇」で全体28.9%を占めている。以下「自己概念とのマッチング」、「経営安定性」と続く。このデータは2位と3位の入れ違いはあったものの2005年とほぼ一致している。大重(2016)では、同様の質問を樹人医護管理専科学校応用日本語学科の4年生と5年生に行っている。研究方法の相違から質問項目が今回の調査と一致していないが、「賃金水準」の選択は4年生で第3位、5年生では第1位であった。この時の4年生第1

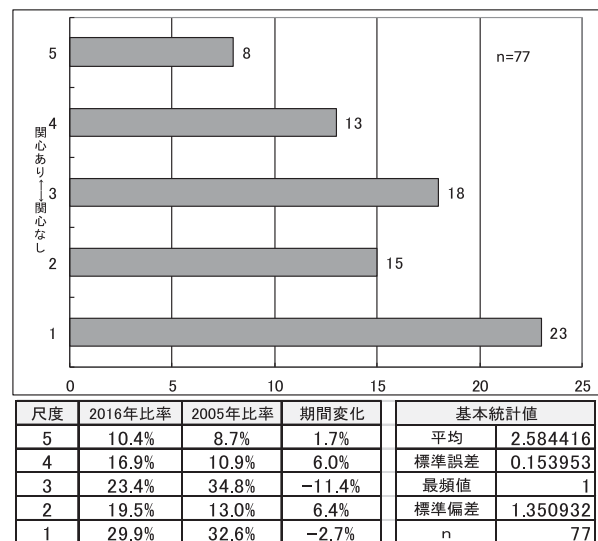


図9 海外での就労について可能性はどうか

図9はグローバル化を反映した海外での就労に対する考えを問う質問の結果である。

樹人医護管理専科学校は海外の大学・短大と積極的に提携を結び特に日本語学科の学生は、本学へ長期留学(1年間)の学生も複数いる。本学から同学への長期留学は、残念ながら2014年の協定締結後まだ実現していない。語学能力の向上と共に国際感覚を育てる教育は、観光立県を目指す鹿児島県にとっても、重要な課題である。アンケート数値も2005年対比でもやや尺度が低下してきている。

D) キャリア・カウンセリング

1. 就職活動にカウンセリングが必要か

図10は就職活動を支援するキャリア・カウンセリングの必要性についての質問に対する結果である。本学においても学

生の就職活動をキャリア・カウンセラーがサポートとする状況が常態化している。アンケート結果においても、そのことが強く支持されており2005年との変化でも尺度4～5の比率が12%程度増加している。

今回台湾の文藻外語大学を訪問し学内見学の機会を得たが、同大学では就職・進路サポートに力を入れており「生涯発展中心 (Career Development Center)」を設置し、「学生事務處」の職員などが就職情報提供や学生からの相談に応じていた。また学生の卒業時期に合わせ合同企業説明会を学生事務處生涯発展中心が主催し開催している。今年の名称は「2016文藻外語大学就業博覧会」である。

卒業生調査でも明らかのように、台湾では学生個人が就職情報サイト等を介して就職活動を行うケースも多いが、文藻外語大学では企業求人と学生のニーズとのマッチング機会を積極的に作っており、就業博覧会に数多くの企業が参加しているとのこと。また同大学のカウンセリングは、就職・進路と同時に学生生活での様々な悩み相談に応えるためのカウンセリングも国の政策に則って行っている。見学したカウンセリング室は、学生をリラックスさせるような調度品を備えた室内となっていた。

図11はキャリア・カウンセラーに何を望むかについての質問結果である。2005年は求人がタイトで企業選択に関わる相談・支援が第1位となっていたが、今回は企業情報提供が第1位となり、第2位が面接話法など具体的指導となっており、カウンセリングよりはコンサルティング業務にシフトする傾向にある。

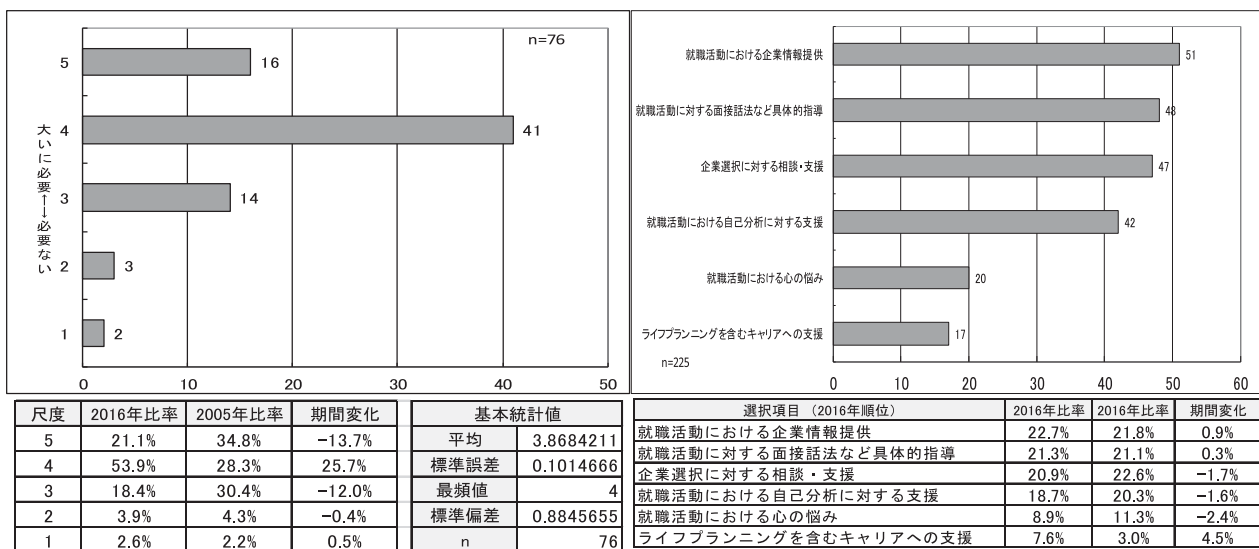


図10 就職活動にカウンセリングは必要か

図11 キャリア・カウンセラーに何を望むか
(上位3つまで選択可)

5-3 海外インターンシップ実施 (台湾高雄市) から得られた成果と課題

本学では2014年から一般教養科目「海外事情」(1年後期、演習、選択2単位)を連携協定先の中華民国(台湾)高雄市にある樹人医護管理専科学校と交流を行っている。本年は8/27～9/3の8日間実施した。今回は本稿の研究調査を兼ね「海外事情」に引率同行したが、初めての企画として台湾高雄市内企業とのインターンシップも期間中実施した。海外でのインターンシップは初めてであり参加学生の確保を懸念したが、積極的に3人の学生が参加し受入企業や関係者と期待以上の交流を行うことが出来た。

- ・期間 2016年8月30日～8月31日(2日間)
- ・受入企業：日鐸国際企劃股份有限公司 JPTIP CO.LTD. 高雄支店(以下JPTIPとする)
代表者 総監(支店長) 郭 馥瑄 住所 高雄市前金區中華三路
- ・参加学生：教養学科 1年生3名 (引率：大重)

(1) インターンシップ概要・成果

- ・受入先の「日鐸国際企劃股份有限公司」は台湾から日本への企業進出や留学生への総合的なサービスを提供するコンサルティング会社である。昨年の教員研究で台湾企業を訪問する際、樹人医護管理専科学校から紹介された企業である。

- ・参加学生は募集の段階から自ら希望をして積極的に参加しており、慣れない海外の研修でも特に問題無く、企業先の配慮もありコミュニケーション対応ができていた。
- ・JPTIP では、ネイティブの日本人と日常会話をする機会を契約者に提供できる貴重な機会と位置づけていた。日本語教員は5人ほどいるが、彼らの授業の中で本学生は楽しく鹿児島や日本の文化を説明し同校の学生からも非常に好評であった。今後鹿児島と台湾のとの一層の交流の促進の可能性を直接感じることができた。
- ・JPTIP の要望により本学学生によるプレゼンテーションがスケジュール織り込まれており、事前に発表用パワーポイントなど準備をしていたが、結果は非常に好評で質疑も活発になされた。
- ・またこの経験により、学生達も主体的に関わり情報発信することの大切さがよく理解できたとのことで、その後の樹人医護管理専科学校学生との交流も一層活発に行われた。海外においても言葉の壁さえ乗り越えられれば、文化の違いがあってもコミュニケーションを円滑に進めること可能であることを体験でき、学生達は大きな自信を得た。
- ・海外でのインターンシップは、国内のインターンシップ以上に予測不可能なことに対処しなければならず、事前の計画・準備が重要である。学生らは緊張感を持って事前のプレゼン練習や予備的な発表材料の用意等を行い、自己管理の面での成果が大きかった。実際のインターンシップ現場では、相手の日本語能力に合わせ急遽プレゼン内容を差し替えるなど、状況に合わせ柔軟に対応することができた。

(2) 学生の研修報告内容（抜粋）

1. 学生個人の目標設定

- ・学生A・・・自分と全く考え方の基礎が違う人々と上手く接することができるかを確かめる。
- ・学生B・・・インターンシップを通して台湾の文化や日本に対する考え方を学ぶ。
- ・学生C・・・日本の文化の良さを再認識し、台湾の文化を学ぶ。

2. インターンシップを通じて感じたこと、気づいたこと

- ・学生A・・・母国語（中国語）とは全く異なる言語である日本語を教える教員スタッフは如何に学生達に対し面白く、分かりやすく伝えるかを良く工夫していた。
- ・学生B・・・日本に興味を持ち、日本語を学んでいる人は若者だけでなく中年の人も複数おり、幅広い年齢層から日本に好意をもたれていることが分かり嬉しかった。
- ・学生C・・・私は台湾の言語（中国語）を話せないが、台湾の学生はとても積極的にコミュニケーションを取ろうとしており、自分もコミュニケーション能力や積極性をもっと身に付けるべきだと感じた。台湾の人に鹿児島の良さを伝えることで、自分自身鹿児島の良さを再認識できた。

3. 自分の課題として見出したこと

- ・学生A・・・グローバル化が進んでいるので、自分をもっと世界の文化に対応できるようにならなくてはいけないと思った。外国人は、私たち日本人が当たり前と思っていることに対し、疑問を持っていることが多いことに気づいた。逆に私たちがもっと日本のことを知っておくべきだと思った。
- ・学生B・・・自分の想像以上に沢山の台湾人が日本に興味を持っていた。日本でも若者しか知らない言葉や、今では死語となってしまった言葉も知っている人がおり、我々自身の勉強不足を感じた。
- ・学生C・・・①積極性とコミュニケーション能力を鍛える ②鹿児島の良さ、鹿児島についてもっと知識を増やす必要がある。 ③台湾のみならず、他の国にも視野を広げる。

(3) インターンシップ日程・内容

第1日目 (8/30)

13:30～17:00 初級Ⅰクラスに入る。当日の授業は文化体験日。

日本のアニメ映画を見て、ワークシートで議論。

授業全体は4コマで（1コマ45分）、1～3コマ目は映画鑑賞及びディスカッションを実施。

最後の1コマは、本学学生が考えたゲームを実施。ゲームで台湾の学生と交流した。

ゲーム：ホワイトボードに日本の風物を描き、分かった学生からそれを説明してもらうゲーム。

（桜島やアニメキャラクターなど多数）

17:00～18:00 休憩時間

18:00～19:00 鹿児島の観光紹介（鹿児島の観光・食・日本のサブカルチャー）

19:00～20:30 生徒募集用の模擬授業に入って交流。（自由討論）

(19:00~20:00 同社の日本語教員の授業と一緒に参加し、一緒に日本語を練習。)

20:00~20:30 文化体験タイム、午後行ったゲームを再度行い来場者と交流。

第2日目 (8/31)

13:30~17:00 初級Ⅱクラスに入る。当日の授業は学生の課題発表日。

同校の学生に自分が好きな日本のドラマやアニメを選んで、PPTを作成し、クラスメートに

紹介する授業。一緒に授業に入り、学生の発表にフィードバックをした。

また本学学生が用意した日本のアニメ文化の紹介も学生に紹介した。(紹介時間は約15分)

17:00~18:00 休憩時間

18:00~19:00 鹿児島の観光紹介(鹿児島の観光・食・日本のサブカルチャー)

※前日と同じ内容

19:00~20:00 ワーキングホリデー説明会に参加。(通訳付)

- ・同社より、ワーキングホリデーで日本に行きたい人に、ビザ申請の手続き、出発前の準備、同社提供のサービス紹介の時間に15分ほど、本学の学生が日本のアルバイトの体験談や、用意した鹿児島の企業紹介等を来場者に説明した。

- ・鹿児島県の産業・企業については大重がPPTで説明。学生は、鹿児島の観光・食・鹿児島のお土産について解説を行いその後、参加者と自由討議・交流を行った。

(4) 課題

今回の海外インターンシップでは、日本語環境の整った企業を選び実施した。学生自身の中国語や英語に対する語学能力は特に必要としない状況での派遣である。海外でのインターンシップ実施では、語学能力の実践も必要である。今回の「海外事情」研修プログラムでは受入校の樹人医護管理専科学校での中国語授業も含まれていたが、学外での実践機会は無かった。今後は学生の語学レベルを勘案し、英語圏も含めて海外インターンシップ実施の可能性を検討する必要がある。

6. まとめと今後の課題

今回の台湾での調査研究は、昨年度の大重(2016)で懸案とした「二技」等への進路状況を樹人医護管理専科学校応用日本語学科の卒業生データで明らかにすることができた。また「二技」等へ進学後の進路についても同専科学校教員の多大な協力で状況を知ることができた。二技等への進学では男女ともに70%以上が進学を選択している。学費への経済的な負担が当然掛かってくるが、学生へのインタビューではアルバイト等で苦学しても自分の目標とする就職をするため学業を修めたいとの意見が聞かれた。樹人医護管理専科学校応用日本語学科の現役学生も、より一層日本語能力を向上させたいという強い意志を感じる場面が何回もあった。董(2007)の因子分析で明らかにしている通り、台湾における若年者の就職動機では、「自己達成志向」と「上昇志向」が現在も健全であり、五専の学生達のモチベーションとなっていた。二技進学後の就職は台湾の経済統計上、若年層の失業率が高いことから分かるように厳しい現実がある。^{註12} データ数としては少ないながら、今回の調査では卒業後の就職活動中が30%を超えていた。自己達成意識が高い分、現実の求人内容とのマッチングは容易ではない。

一方、本学教養学科学生に対するキャリアデザインでは、2005年調査との比較では現在の雇用水準の高まりの中で学生のキャリア意識の変化していることが分かった。雇用環境が好転している状況で、自分の就職に対して2005年の状況と比べ楽観しており、モゼア・カウンセリングに関してもより客観的な情報に対するニーズに変化していた。2005年の調査後2008年9月にリーマンショックが発生し全世界的な金融危機が襲ってきた。現在は緩やかな回復期で雇用環境に関してはかなり明るいものの、今後いかなる経済変動が起こるか予断はゆるされない。台湾と日本は経済環境や規模が違うものの、学生として持っておくべき将来への展望は「自己達成志向」や「上昇志向」が大きく関わっている。その意味で今回台湾の学生と現地で接し得たものは大きかった。また本学学生が台湾で行ったインターンシップでも自己達成意識を学生達の行動から感じることができた。

今後の課題としては、台湾側で感じられたこの2つの志向に関して日本側(本学)で就職動機として因子分析を行い改めて台湾での研究と比較考察をおこない、その結果次第で必要な改善への提言を行いたい。

謝辞

今回の樹人医護管理専科学校での調査や研究訪問では下記多数の先生方に大変お世話になり、誠に有り難うございま

た。心より御礼申し上げます。

・樹人医護管理専科学学校

学長 陳明堂 先生

応用日本語学科 主任 林 亭瑜 先生 小堀 和彦先生 末重 綾佳 先生

通信教育センター 徐 金財 先生

および 卒業生調査では黒川 太郎 先生（元応用日本語学科教員）

通訳等でお世話になった留学生の方々

・文藻外語大学 副教授 董 莊敬 先生（学生事務處生涯發展中心 主任）

・日鐸國際企劃股份有限公司 JPTIP. 總監 郭 馥 瑄様

<注>

- 1) 上記専科学学校との交流を目的とした海外研修。今回は教養学科の1年生9名が参加。尚、同研修のアテンド役を務めた樹人医護管理専科学学校の内4名は、本年後期から1年間の交換留学生として本学で学んでいる。
- 2) 鹿児島県観光交流局観光課「平成27年 鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～」2016
- 3) 梁 忠銘 中華民国台湾における「技術及び職業教育」に関する研究－職業学校・専科学学校を中心に－ 東北大学大学院教育学研究科研究年報 第43号, 1995, p.110
- 4) 董 莊敬「台湾における若年者の就職動機と職業階層」常磐大学『人間科学論究』第15号, 2007, p.95
- 5) 董 莊敬「長期型インターンシップのキャリア形成効果－インターンシップによる社会人基礎力向上の要因分析」日本比較文化学会『比較文化研究』No.119, 2015, p.135
- 6) 進学上の二技の位置は図2「台湾の現行学校教育系統図」を参照
- 7) 董 莊敬「大学生の職業選択の規定要因に関する研究」常磐大学『人間科学論究』第14号, 2006, p.42
- 8) National Statics (ROC), 中華民国統計資訊網, “Manpower Survey Results in October 2016”
- 9) 五専での学位は副学士であるが、二技まで修了した時点で学士の学位が取得できる。
- 10) 大重 康雄「短大におけるキャリア教育に関する一考察－キャリア自律の視点から」鹿児島女子短期大学紀要 第41号, 2006
- 11) アンケート内容・分析についての考察は、台湾の職業・進路との比較上有意と思われる9項目に絞り込み述べる。
- 12) 日台の労働市場の相置、若年者の雇用問題については董（2006b）に詳しい考察がある。

<引用・参考文献>

- 1) 大重 康雄「職業意識に関する中華民国（台湾）との比較研究 中華民国（台湾）提携校「樹人医護管理専科学学校日本語学科」の協力を得て」鹿児島女子短期大学紀要 第51号, 2016
- 2) 鹿児島県観光交流局観光課「平成27年 鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～」2016年
- 3) 野々村 新 他「キャリアガイダンス義務化に伴う大学のキャリア教育の展望(下)」桜文論叢 85, 2013
- 4) 独立行政法人大学評価・学位授与機構「台湾高等教育の質保証 ブリーフィング資料」（作成：NIAD-UE 評価事業部国際課），2015
- 5) 劉 語霏「台湾の義務教育制度改革に伴う後期中等教育の再編－普通高校・職業高校の地域化政策に着目して－」東北大学大学院教育学研究科研究年報 第57集第1号, 2008
- 6) 董 莊敬「大学生の職業選択の規定要因に関する研究」常磐大学『人間科学論究』第14号, 2006a
- 7) 董 莊敬「台湾における若年者の就職動機と職業階層」常磐大学『人間科学論究』第15号, 2007
- 8) 董 莊敬「教育の職業的レリバンスとキャリア教育－キャリア形成の現状と問題点」致良出版社有限公司（台湾台北市），2012
- 9) 董 莊敬「長期型インターンシップのキャリア形成効果－インターンシップによる社会人基礎力向上の要因分析」日本比較文化学会『比較文化研究』No.119, 2015
- 10) 董莊敬「若年者の雇用問題と職業能力の形成の日台比較」日本労働社会学会『日本労働社会学会年報』第16号, 2006b
- 11) 文部科学省「短期大学について－卒業者の進路・就職状況（平成27年3月卒業者）」文部科学省
ホームページ http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tandai/, (2016年10月15日取得)
- 12) 梁 忠銘 中華民国台湾における「技術及び職業教育」に関する研究－職業学校・専科学学校を中心に－ 東北大学大学院教育学研究科研究年報 第43号, 1995

(2016年12月2日 受理)